

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立赤穂高等学校

活動の実際（単元名）

- 〈全日制〉課外活動における交流及び共同学習を実施。
- 〈定時制〉特別活動における交流及び共同学習を実施。

指導目標

障がいのある生徒に対する正しい理解と認識を深め障害のある生徒と障害のない生徒の相互理解を一層推進し、地域社会の一員として生きる力を共に育む。

事前学習

- ・対象生徒全員に事前アンケートを実施して、障害のある生徒への認識を調査した。（全日制）
- ・赤穂特別支援学校の教員を招いて、事前ワークショップを実施した。（全日制）
- ・交流及び共同学習を実施するにさきがけて、赤穂特別支援学校の教員を講師に招き、本校全生徒対象に交流オリエンテーションを実施した。（定時制）
- ・毎回事前に交流するクラスの特徴や接する際の注意点などを具体的に伝達。また、交流ノートを作成することで、前回の学びを振り返って次の交流での目標を明確にした。（定時制）

学習活動（具体的な取組）

- 〈全日制〉
- ・赤穂特別支援学校の生徒たち計 14 名を本校に招き、部活動（調理部・卓球部・音楽部）体験を行った。
- ・赤穂特別支援学校の運動会に、本校生徒 10 名が参加。準備の手伝いおよび球入れの競技を、赤穂特別支援学校の生徒と共に行った。
- 〈定時制〉
- ・赤穂特別支援学校の授業に本校生徒 11 名が参加した。1 学期は「体育」、2 学期は「音楽」、3 学期は「作業学習」でそれぞれ体験的なグループ学習を共に行った。
- ① 学習内容の説明
- ② 共同学習（体験）
- ③ 振り返り

支援と留意点

- 〈全日制〉
- ・視覚的な補助（ポスターやイラスト）などを積極的に活用した。
- ・見通しを持って行動できるように、先に一日の流れを明確に伝えておく。
- 〈定時制〉
- ・授業の流れやポイント等をわかりやすく可視化した。
- ・本校の生徒と赤穂特別支援学校の生徒でペアを組ませてお互いに協力しやすい環境を作った。
- ・直前に、抱えている障害やかかわり方を具体的に知らせた。

評価

- ・事前アンケートと事後アンケートを実施したり、交流後に感想文を作成したりする等、活動体験を客観的に振り返る機会を持つことで、障害についての理解や接し方等を深めることができた。（全日制）
- ・自分のやるべき作業の流れが明確になることで安心して授業に臨めた。また、特別支援学校の生徒が抱えている障害のことや接し方を知ることで、授業では主体的なコミュニケーションが十分にとれていた。（定時制）

活動の様子



部活動体験（調理部）
協力してクッキー作りを行いました。



作業学習（農園・解体班）
レモンハーブを使ったハーブティーづくり。

事後学習

- ・事後アンケートを実施し、感想文を記入して活動の振り返りを行った。（全日制）
- ・毎回交流ノートに感想・活動の記録を記入し振り返りを行った。また、年度末には交流参加者のスライドを使った活動発表を全校生徒対象に行う予定である。（定時制）

成果と課題

- 【成果】
- ・障害のある生徒に対する理解が深まった。（全日制）
- ・一緒に身体を使ってのコミュニケーションや、教えあい学びあいながら進めてゆく授業を体験することで、他者への思いやりの大切さを学び、自己肯定感を高めた。（定時制）
- 【課題】
- ・対象が一部の生徒に限られているため、全校生徒が交流及び共同学習にかかわることができるような工夫が必要である。（全日制）
- ・事前指導・事後指導の工夫や、毎回振り返り作業を個人ワークだけでなくグループで実施して意見交換の場を設ける等、振り返り作業を充実させることが課題である。（定時制）